

実証分析から Twitter における炎上加担について検討

—現実とネット上の主観的地位を注目する—

○廉 志顕 (LIAN Zhixian)、竇 雪 (DOU Xue)

Keywords : 炎上、主観的地位、Twitter

1 目的

本研究では実験法を用いて、どのような人が炎上に加担するのか、特に収入・学歴などの属性と主観的地位が与える影響について検討する。先行研究によると、中高年以上、高い収入、高い社会的地位をもつ男性が炎上に参加しやすくなると指摘されている(山口, 2020)。また、自分が感じている社会的地位いわば主観的 SES の高さが人々の炎上参加を促進する要因であることも指摘されている(田代, 2012 ; 廉・竇, 2022)。ただし、多くの場合、これらの研究において炎上参加を測定する際は、参加者にこれまでの経験を想起させた上で自己報告に基づいた質問項目を使用しており、主観的な解答となっている。この場合、自分が他人に攻撃や批判をしたと自覚していない状態でも、実際には強い口調や悪口コメントを投稿して炎上に参加している可能性もあり、炎上加担者を正しく把握できないともいえる。そのため、実際に炎上加担している人たちの属性や性質を把握するためには、具体的な炎上事例やそれに関するコメントを用いて、さらに客観的に検討する必要がある。そこで、本研究では、Twitter における二つの炎上事例とそれに関するコメントを用いた実験を行うことで、炎上参加を客観的に測定する。加えて、これまでと同様に、参加者に想起させる形での炎上経験尺度も使い、炎上参加を主観的に測定した場合と、客観的に測定した場合の違いについても検討する。

2 方法

2023年03月、WEB調査会社を介して20~59歳の614人(年齢: $M=39.93$, $SD=8.98$; 男性348人、女性266人)を対象とした参加者間実験を行なった。参加者はランダムに2つ炎上事例(マスク・W杯)のうち1つに振り分けられ、炎上事例と関連するコメントを閲覧した。閲覧後、参加者には三つのコメントを呈示し、自分ならどのコメントを投稿したいかについて選択してもらった。その後、参加者は自分が選択したコメントの攻撃性・批判性について回答した。加えて、参加者は現実の主観的 SES、ネット上の主観的地位、炎上に関する経験、収入・学歴などについて回答し、最後に年齢、性別、SNS利用頻度についても回答してもらった。

3 結果

これまで炎上に加担した経験を従属変数として二項式ロジスティクス回帰分析を行った結果、世帯年収($b = -.138$, $p < .10$)と現実の主観的 SES($b = -.194$, $p < .001$)はマイナスな影響を与えたが、ネット上の主観的地位($b = .184$, $p < .001$)と男性($b = .153$, $p < .05$)がプラスな影響を与えていた。さらに、実際コメントの選択結果を従属変数として重回帰分析を行った場合、世帯年収($b = -.035$, $p < .05$)のみ有意であった。

4 結論

上記の結果から、Twitter において炎上に加担しやすいのは、世帯年収、および現実世界で感じる主観的地位が低い人、ネット上における主観的地位が高い人、そして男性であるといえる。さらに、実際に炎上事例を用いた実験では、参加者の収入・学歴などの属性や主観的地位が具体的なコメントの選択にあまり影響を与えないことも明らかになった。これらにより、炎上活動に対して、人々の実際行動と主観的認識の間で異なる心理的プロセスの可能性があると考えられる。

【主要参考文献】

山口真一 (2020). 正義を振りかざす「極端な人」の正体 光文社.

田代光輝 (2012). 大学生のネット炎上分析と予防及び対応の提案: 好ターゲットとしての大学生の実情とネット炎上からの回避の提案 (20周年記念特別号). 大妻女子大学紀要. 社会情報系, 社会情報学研究, 21, 233-241.

廉 志顕・竇 雪 (2022). ネット上の主観的 SES が炎上参加に与える影響—心理的特権意識の媒介効果について— 第47回情報通信学会大会. <http://www.jsicr.jp/doc/taikai2022/fall/A1.pdf>